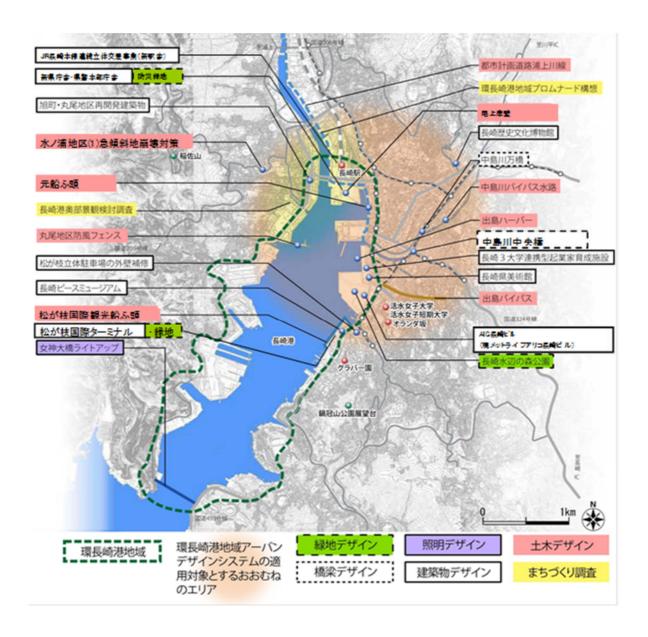
資料 3-1

環長崎港地域アーバンデザインシステムの実績

【概 要】

長崎港周辺地域で実施される県主体の事業等について、アーバン(都市)デザイン専門家の 方々から、高い専門性を活かしたアドバイスをいただき、質の高いデザインの創出を目指す仕 組み(「環長崎港地域アーバンデザインシステム」)により、魅力ある都市空間の創出を図っ てきた。



1. 旭町再開発ビル

- ・建物敷地と海側の公共的空間に一体的な緑を配置すべき。
- ・長崎の歴史と文化の象徴であるレンガ色を基調にされているが、ボリュームが大きいので目立たないようにすべきで、周囲の港の景観、背景となる山の緑との調和を考えると、白に近い淡い色がよいのではないか。
- ・レンガ色の吹付けタイルは経年変化による褪色が激しいので、できれば使わない方がよいので はないか。



《旭町再開発ビル全景》



《旭町再開発ビルセットバック①》



《旭町再開発ビルセットバック②》

2. 長崎水辺の森公園

- ・彫刻的なベンチだけでは、公園としての機能を充足しないので、ところどころに木のベンチも 置いてはどうか。
- ・耐用年数だけを理由に木ではなく石を使うのではなく、県内産の木材を使うことを考えてはどうか。
- ・水と緑が主役なので、構造物はあまり出しゃばらない方がよいのではないか。



《長崎水辺の森公園全景》



《うみてらし橋》



《水の劇場》



《オランダ坂橋》

3. 出島ハーバー

【専門家からの意見】

・杭やゲート、渡橋の手すり等については、できるだけさりげなく見えるよう白に塗ってはどう か。



《出島ハーバー全景》



《出島ハーバー近景》

4. 都市計画道路浦上川線

- ・歩道照明灯は、水辺の森公園の遊歩道や出島ワーフの前面と統一した環境類型Ⅱにしてはどうか。
- ・稲佐山からの夜景を考慮すると、同じ色の道路照明が連続するようにしてはどうか。
- ・長崎ならではの味わいがデザインの中に散りばめられていると、もっと魅力的なものになるのではないか。植栽ひとつでも長崎らしさが演出できるとよい。
- ・自転車と歩行者が混在すると危ないので、それぞれの通行部分を分けてはどうか。



《都市計画道路浦上川線》

5. 元船物揚場

【専門家からの意見】

- ・既設の石積みは歴史的な意義があるものなので、加工してでも再利用した方がよい。
- ・安全・安心を第一に考え、照明できちんとした照度を確保し、女性やお年寄りでも不安なく歩 けるようにすることが重要である。
- ・パリやサンディエゴのように、長崎港周辺でも照明灯の基本デザインを設定し、それを基にし たファミリーデザインという形で多様性を演出してはどうか。
- ・ボードウォークについては、素材、デザイン、工法の少なくともどれかを統一してはどうか。







《元船物揚場(プロムナード)》

6. 水辺のプロムナード構想

【専門家からの意見】

- ・幅員的に可能な場所は、2列植栽をしてはどうか。樹種も短区間で変えるのではなく、1つの 種類で統一すべきである。
- ・放射状に行ったり来たりするだけでなく、回遊性を確保するようにすべき。横につながる楽し い道を見付けていくことが大事である。

《写真についてはP4の4. 都市計画道路浦上川線、P5の5. 元船物揚場のプロムナードを参照》

7. 出島バイパス道路標識

【専門家からの意見】

・海辺の景観として、白系統でまとめるのはよいと思う。



《出島バイパス道路標識》

8. AIGビル(現メットライフアリコビル)

- ・建物のボリューム感が非常に大きいので、デザインを分節化し、2つの建物に見えるよう工夫してはどうか。
- ・建物のデザインカラーは白がよい。汚れが目立たない範囲で、できるだけ白に近い色にしてはどうか。
- ・長崎は高いところに視点場があるので、そこからどのように見えるかということも十分考慮し、 屋上のデザインも行うべきである。
- ・駐車場は木に隠れているようにすべきである。



《AIGビル①(現メットライフアリコビル)》



《AIGビル②(現メットライフアリコビル)》

9. 大学連携型起業家育成施設(D-Flag)

【専門家からの意見】

- ・長崎港周辺で大事なのは、緑の山と青い海なので、それらが映えるように外壁は白にした方が よい。
- ・建物のデザインは、近接する美術館と共鳴し合うものとしてはどうか。また、ファサードは、 知的な雰囲気が感じられるものにできないか。



《大学連携型起業家育成施設(D-Flag)全景》

10. 長崎港松が枝国際観光船埠頭

- ・ターミナル屋上の緑地は、バリアフリーに配慮し、縦横の合成勾配が8%以下となるようにしてはどうか。
- ・観光関係の建築物では、できるだけオーシャンビューを確保してはどうか。
- ・クルーズ船はターミナルよりかなり大きいので、建物だけでなく緑地も一体となって船を迎え 入れるような考え方で計画することが必要ではないか。
- ・「これからあの船に乗るんだ」という期待感を高めるため、建物西側(海側)にも大きな開口 部を設けてはどうか。
- ・クルーズ船の大きさを考慮すると、ターミナルの建物端部は直角に切るのではなく、伸びていく感じにする方がよい。
- ・鉄筋コンクリートは潮に弱いが、木材は潮に強く温かみもある。耐火性能に支障のない範囲で、

もっと木材の活用を考えてほしい。

- ・緑地内に石のベンチを置くと、スケートボードなどによって損傷を受けることが多く、補修も 容易ではないので注意が必要である。
- ・地場産業の育成やメンテナンスを考慮し、県内メーカーが製造している照明器具の採用を検討 してほしい。



《松が枝国際観光船埠頭全景》

《松が枝国際観光船埠頭オーシャンビュー》

11. 新市民病院

- ・LED照明は、長寿命であることだけでなく、微妙な調交も簡単にできるメリットがあるので、 積極的に採用してほしい。
- ・建物の外壁は、山の緑が映えるよう白っぽい色で統一した方がよい。近くにある美術館の石の 色との調和も考慮すべきである。
- これだけ大きな建物に傾斜屋根を付けたらバランスが悪い。屋上緑化をするのであれば陸屋根 で構わない。
- ・上から見られる建物であり、入院患者のリハビリにも役立つことを考え、屋上庭園を整備して はどうか。



《新市民病院全景》

12. 新県庁舎、新警察本部

- ・警察関係の建物は、まちなかにあっても人を寄せ付けない印象が強いが、緑地と一体的に整備 すれば、そういう課題も解消できるのではないか。
- ・建物は、L字型やコの字型にすることなどにより、強風から守られた屋外空間を造った方がよいのではないか。
- ・魚市跡地は駅に近接し、前に水辺があって、長崎で最もよい場所である。そこに四角い箱みたいな建物ができるのはもったいない。
- ・視点場から見たときに、海への眺望を遮るような建て方はよくない。建物の長手方向が視軸と 交わらないように配置すべきである。
- ・建物西面の見え方が単調なので、いくつかのブロックに分節化するとか、可動式のルーバーを 付けるなどの工夫ができないか。
- ・まっすぐな大階段は、お年寄りや小さい子どもにとって危険である。
- ・駐車場は、外から内部が丸見えにならないように配慮してはどうか。
- ・大階段には、下から見える位置に踊り場を設けた方がよいのではないか。
- ・案内サインの英語表記は、日本語と同じくらい大きくしてはどうか。



《新県庁舎・新県警本部イメージパース(北側)》

13. 尾上地区防災緑地

【専門家からの意見】

- ・長崎は観光地なので、夜も誘客できるような照明計画を検討してはどうか。
- ・広場にポール照明を立てなくても、近隣のビルの上から照らしてはどうか。
- ・港への眺望を遮る場所には木を植えないというのではなく、木々の緑を含めて港の風景を見せ るべきである。
- ・誘客を考慮し、植栽計画もこの場所にしかない個性的なものとすべきである。
- ・広場を造っても、グリーンカバーがしっかりしていないとすぐ醜くなるので、耐久性・耐圧性 のある芝を使うことが必要である。

14. 尾上地区岸壁

【専門家からの意見】

・同じ長崎港で、場所によって係船柱周りの処理が違うのはおかしいので、元船地区と尾上地区 の仕上げは揃えるべきでではないか。



《新県庁舎・新県警本部・防災緑地等イメージパース(北側)》

15. 松が枝第2ターミナル

【専門家からの意見】

- ・仮設であっても、5年、10年は使うものであり、長崎の玄関口に当たる場所なので、しっかりデザインしないといけない。
- ・2つのターミナル間は、手荷物を持って多くの旅客が往来するので、傘を差さずに移動できる よう屋根付きの通路を設けた方がよいのではないか。



《松が枝第2ターミナル全景(山側から)》



《松が枝第2ターミナル全景(海側から)》

16. 長崎県美術館



《長崎県美術館(アートプロムナード①)》



《長崎県美術館(アートプロムナード②)》



《長崎県美術館(アートプロムナード③)》